

職場における談話の修辞機能と脱文脈化の観点からの分析

田中弥生 (神奈川大学外国語学部・国立国語研究所理論・構造研究系) †

Discourse Analysis of Business Communication in Terms of Rhetorical Functions and the Degree of De-contexturisation

Yayoi TANAKA (Kanagawa University, National Institute for Japanese Language and Linguistics)

要旨

選択体系機能言語理論における談話分析手法の一つである修辞ユニット分析 (Rhetorical Unit Analysis) によって、職場における談話の分析を試みた。『合本 女性のことば・男性のことば (職場編)』を資料として、「会議」場面における談話を修辞機能と脱文脈化程度の観点から、その出現および展開の様子を確認し、「会議」における談話の特徴をとらえることを試みた。その結果、「会議」の下位分類である「打合せ」と「雑談」の特徴をとらえられることがわかり、「会議」の下位分類を設定する際の指標となりえる可能性がうかがえた。また、話し言葉に RUA を適用する際の課題についても検討した。

1. はじめに

談話の分析に用いられる手法には様々なものがある。修辞ユニット分析 (Rhetorical Unit Analysis 以下、RUA) は選択体系機能言語理論において用いられる談話分析手法のひとつで、バフチンの *chronotope* の概念 (1981) である空間と時間の融合が言語テキストにどのように示されているかをとらえ、脱文脈化言語 (*de-contextualised language*)・文脈化言語 (*contextualised language*)¹ の相違を捉える枠組みとして知られている (Cloran, 1994, 1999, 2010)。テキストの意味単位を特定するための手法 (佐野 2010b) だが、その過程において発話機能 (*speech function*)、中核要素 (*central entity*)、現象定位 (*event orientation*) の3つをメッセージ単位で認定することで、修辞機能 (*rhetorical function*) の種類を特定し、その結果として脱文脈化の程度 (*degree of de-contextualisation*) を知ることができる。母子会話の他、学校における教師と生徒の説明的な談話の様相を示し (Cloran 1999, 2010)、日本語への適用については佐野・小磯 (2011) によって検討され、英語と日本語の言語の違いに関わる修正が加えられている。その後、専門性の低い作文を高い作文に修正する RUA を用いた指導の説明 (佐野 2010b)、インターネット上の Q&A サイト「Yahoo!知恵袋」やクチコミサイトを対象とした分析 (田中・佐野 2011a, 2011b, 2011c, 田中 2011, 2013a, 2013b) などが進められている。しかし、日本語話し言葉への RUA の適用はまだ進んでいない。本研究では、RUA の分析手法を用いて日本語の話し言葉を分析する試みとして、「会議」における談話の修辞機能と脱文脈化程度の特徴を明らかにし、また日本語話し言葉における RUA 分析適用における課題について検討する。以下、2で分析方法、3で分析結果と考察、4でまとめと今後の課題を述べる。

† yayoi@ninjal.ac.jp

¹ Cloran (1999) に基づき、脱文脈化言語を「一般化された要素の習慣的・恒久的な行動や状態について表現する言語」、文脈化言語を「物質的状况に存在する要素の現在の行動や状況について表現する言語」とする。

2. 分析方法

2. 1. 分析対象

本研究で使用する談話資料『合本 女性のことば・男性のことば (職場編)』では、「場面1」(収録が行われた場面。「朝」「会議」「休憩」と、「場面2」(談話の場面や具体的な場面情報)が付与されている。本研究では、「会議」の中で「場面2」に「打合せ」と「雑談」の両方をもつ協力者のデータを用いて、話し言葉へのRUAの適用を検討するとともに、「打合せ」と「雑談」の修辞機能と脱文脈化程度の特徴を明らかにすることを試みる。

表1 「女性のことば」 「会議」の「場面2」内訳

場面2 \ 協力者	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	17	総計	
《その他》				1											1	
《不明》								13							13	
挨拶						3		4							7	
挨拶(電話)								5							5	
休憩時雑談						1									1	
検討会										44					44	
雑談			14					107							121	
取引先との電話折衝											108				108	
小会議		322				54		219						257	68	920
相談							43		12						55	
打合せ			189	137			141		267	87	58	89	151		1,119	
打合せ(電話)									5						5	
大会議	249														249	
電話引き継ぎ											11				11	
電話取り次ぎ												1			1	
電話取り次ぎ(電話)												3			3	
総計	249	322	203	138	54	188	219	413	87	102	212	151	257	68	2,663	

表2 「男性のことば」 「会議」の「場面2」内訳

場面2 \ 協力者	01	02	03	04	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	総計	
コンピュータの操作方法の相談と説明												259										259
応対																	10	28				38
会議		129				167				192							73					561
客との応対	11																					11
研究室会議					182																	182
雑談	63								79					17	105						117	381
仕事(応対)																			97			97
仕事(打合せ)																			34			34
指導																				11		11
出張報告											89											89
打合せ	87		124	156				12						158	56				24	202	198	1,017
打合せ(商談)									140													140
打合せ(説明)																		194				194
電話																			40			40
反省会													64									64
報告							80	117														197
総計	161	129	124	156	182	167	80	129	219	192	89	259	64	175	161	73	204	223	213	315	3,315	

表1に網掛けで示した「女性のことば」の「協力者10」、「男性のことば」の「協力者01」「協力者21」を分析対象とする。「女性」の「協力者05」と「男性」の「協力者15」は「雑談」が少ないため除外した。また、当該資料は、文字起こしデータが提供さ

れており、発話内容が不明瞭な部分は「#」によって示されているが、「男性」の「協力者16」は「#」出現率が21.1% (161行中34行) で分析不能な部分が多いため、除外した²。

当該資料では、「朝、職場についてから1時間、会議打ち合わせなどの時、1時間、休憩時間1時間、の計3時間の録音をお願いした。そのうち、資料としては、処理の際の量を考えて、それぞれ1時間の録音の中の、まとまった談話のある10分前後を取り扱うことにした」(「女性のことば」p.9、「男性のことば」p.9)とあり、必ずしも「会議」の開始から終了までが提供されているわけではなく、「会議」の開始から終了までの展開をとらえることはできない。しかし、実際の談話の場面である「会議」の修辞機能と脱文脈化程度をどのように分析できるかを検討する。当該話資料では、「基本的に1文を1レコード(=1行)とし」「ただしここでは、「あっ。」とだけ言って直後に沈黙を伴ったり、発話者の交代が生じるものなども1文扱いにしている。」(「女性のことば」p.20、「男性のことば」p.20,21)とされている。しかし、{うん Inf(女)}のような形で他者の発話に埋め込まれている部分もあり、談話資料の行数を文数や発話単位として扱う場合には配慮が必要であると考えられる。

2. 2. 分析対象のメッセージの認定と種類の認定

RUAでは、「メッセージ」を基本的な分析の単位とする。メッセージは原則として節を最小単位として表わされるものと捉える。RUAによる修辞機能の特定と脱文脈化程度の確認の手順は、1. メッセージとその種類の認定、2. 発話機能・中核要素・現象定位の認定、3. 修辞機能の特定と脱文脈化指数の確認、である³。まず、分析対象であるテキストをメッセージ単位に分割(segment)する。対話をデータとする場合、ポーズ等や他者のあいづち、あるいは共話のために分割された行を、統合して1つのメッセージと認定する場合もある。主部や述部が省略されていると考えられる場合には補足してメッセージへの分割、統合を行う。メッセージは、「位置づけ positioning」、「拘束 bound」、「自由 free」に分類する。「位置づけ」は挨拶・定型句・フィラーなど述部を含まない節のみによって構成されるもので、この後の認定対象とはしない。「自由」は独立して時制やムードなどを表わすもので認定対象となる。(1)ではメッセージ単位で(a)から記号付けをし、メッセージの種類を「」内に付与している。

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| (1) (a) 今日、議事担当課長会があるから。 | 10A5588 ⁴ |
| 3時からね。 | 10A5589「自由」 |
| (b) ここに、予定がはいってるけど。 | 10A5590「自由」 |
| (c) 予定表もらってあるーんでしょ↑ | 10A5591「自由」 |
| (d) え↑ | 10C5592「位置づけ」 |
| (e) ある↑、★新しいの。 | 10A5593「自由」 |
| (f) →どっかいつちやった。← | 10C5594「自由」 |
| (g) えっ。<笑い> | 10A5595「位置づけ」 |

² 分析対象資料の「#」出現率は、「女性」の「協力者10」3.4%、「男性」の「協力者01」6.8%「協力者21」10.2%である。

³ 各種認定および用語は原則として佐野(2010a)、佐野・小磯(2011)に依った。

⁴ 行末に、協力者番号、発話者記号、行番号の順に示している。

- (h) このへん、どっか、おいといたはず。 10A5596 「自由」
- (i) ううん。 10A5597 「位置づけ」
- (j) なるべくねー、転記するようにしてんだよ、 「自由」
- (k) {うん Inf(女)} 「位置づけ」
- (l) ああ、書いてある、 「自由」
- (m) ★議事課長会、書いてある。 10C5598 「自由」

「拘束」は「拘束;意味的従属」と「拘束;形式的従属」に分類する。「拘束;意味的従属」は従属するメッセージの状況(時間・場所・原因・結果・条件等)を説明するもので、従属するメッセージの一部と考えられる。(2)の(a)(c)が該当し、単独ではこの後の認定は行わないが、従属するメッセージ(d)((b)の「位置づけ」は除外するため)とともに認定を行う。「拘束;形式的従属」は意味的には並列の関係だが時制(過去)などの側面で従属するメッセージに形式的に依存するもので、(3)の(b)(c)が該当する。「拘束;形式的従属」はこの後の認定を行う。

- (2) (a) 頭数(あたまかず)増やせばー 「拘束;意味的従属」
- (b) {そうねー (21D)}, 「位置づけ」
- (c) あんまり今の値段と変わらず<笑いながら> 「拘束;意味的従属」
- (d) かい部屋が使えるんじゃないかなー、ってゆうのが。 21A10931 「自由」
- (3) (a) で、最初にお茶をだしてー、 「拘束;形式的従属」
- (b) でー、もう少ししたら、 「拘束;意味的従属」
- (c) そう、40分か50分だったら、 「拘束;意味的従属」
- (d) 珈琲と、あと、ケーキかなんかで。 <笑い・複> 10A5548 「自由」

2. 3. 発話機能の認定

発話機能は、「提言 proposal」か「命題 proposition」に分類する。「提言」は表8の(a)の品物・行為の交換(提供あるいは要求)に関するメッセージ、「命題」は(b)の情報の交換に関するメッセージが該当する。前掲の(2)及び(3)で取り上げたメッセージはすべて情報の交換で「命題」である。

表3 発話機能(Halliday & Matthiessen 2004 : 107)

role in exchange	commodity exchanged	
	(a)goods&service	(b)information
(i)giving	“offer” would you like this teapot?	“statement” he’s giving her the teapot
(ii)demanding	“command” give me that teapot!	“question” what is he giving her?

提言

命題

- (4) とりあえず、曲、ある人は持ってきてくださいーい。 21B10786 「自由」

(4)は「持ってくる」という行為を要求しており発話機能は「提言」である。発話機能が「提言」のメッセージは、この後の中核要素および現象定位の認定を待たず、修辞機能は「行動」、脱文脈化指数は[1]と特定される。発話機能が「命題」のメッセージについて、この後、中核要素と現象定位の認定を行う。

2. 4. 中核要素の認定

中核要素はメッセージの中心となるものがコミュニケーションの場面に存在するか否かによって特定する。基本的には主語によって表現されるが、照応など前後のメッセージを用いて判断する場合もある。また、「このカレーは野菜がたっぷりだ」のように、述部「野菜がたっぷりだ」が「このカレー」の性質を表している場合には、「このカレー」を中核要素と認定する。中核要素の分類を図1に示す。

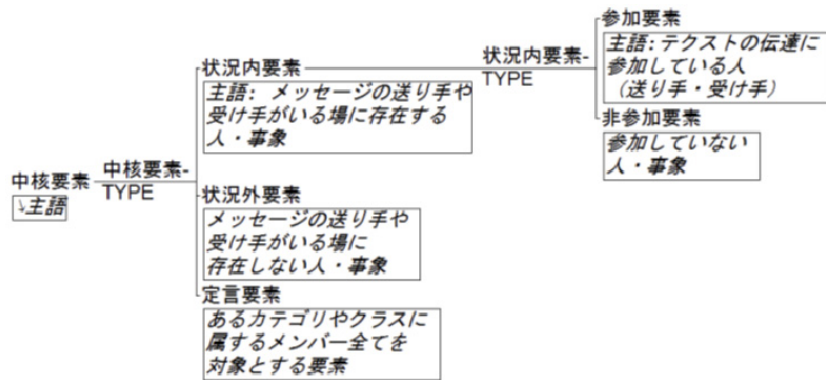


図1 中核要素の分類 (佐野・小磯 2011)

中核要素はまず「状況内要素 co-present entity」「状況外要素 absent entity」「定言要素 generalised entity」のいずれかに分類し、「状況内要素」はさらに「参加要素 interactants」「非参加要素 non-interacting entity」に分類する。なお、(5)(6)(7)にメッセージ単位で、中核要素及び現象定位の認定と、その修辞機能、脱文脈化指数の特定を示した。

2. 4. 1. 状況内要素

主語が「メッセージの送り手や受け手がいる場に存在する人・事象」である場合に「状況内要素」と認定され、さらにその伝達に参加している人を「参加要素」、伝達には参加していない人・事象を「非参加要素」と認定する。「参加要素」は、基本的には一人称、二人称が該当し、典型的なものは「私は」である。(5)では、(c)で「あなたは」、(h)と(j)で「私は」がそれぞれ省略されていると考え、「状況内;参加要素」と認定する。(a)の「議事担当課長会が」や(b)の「予定が」は、その打ち合わせの場にある予定表に記載されている事象で、尚且つ発話主体ではないため「状況内;非参加要素」と認定する。

2. 4. 2. 状況外要素

(6)では、「あたしのいとこが」が、その場に存在しない人であるため、【状況外要素】と認定する。

2. 4. 3. 定言要素

「定言要素」は、「あるカテゴリやクラスに属するメンバー全てを対象とする要素」で、例えば「醤油は大豆からできている」の「醤油は」は【定言要素】である。

2. 5. 現象定位の認定

現象定位は、メッセージによって表現されている出来事がいつ起こったかを、メッセージが伝達されている時 (Time of speaking 以下、Ts) を基準とした時間的な位置を特定して示す要素である。副詞や述部から判断する。現象定位の分類を図2に示す。

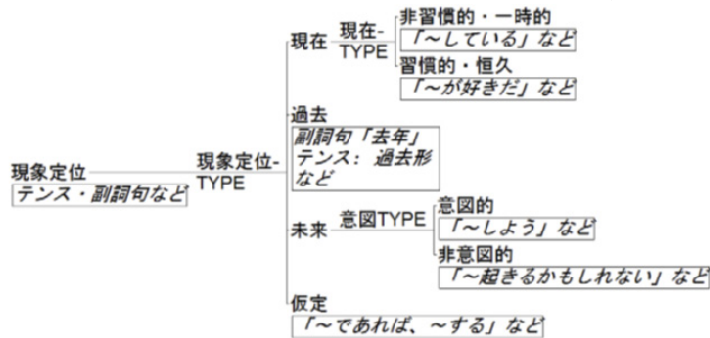


図2 現象定位の分類 (佐野・小磯 2011)

2. 5. 1. 現在

メッセージで述べていることが Ts において起こっていて、習慣性や恒久性について述べている場合には、「現在;習慣的・恒久」と認定する。(5)の(j)は「～することになっている」と習慣を述べている。一方、メッセージで述べていることが Ts において起こっていて、一時的なもの、非習慣的なものは「現在;非習慣的・一時的」と認定する。(7)の(b)などが該当する。

2. 5. 2. 過去

Ts より前に起こったことを述べているメッセージの現象定位は「過去」と認定する。(6)の(f)や(h)が該当する。

2. 5. 3. 未来

Ts では起こっていないことを述べるメッセージの現象定位は「未来」あるいは「仮定」である。「未来」はその行動・現象が意図できるかできないかによって「意図的」と「非意図的」の2つに分類される。(6)の「上京する」は主語である「いところ」が意図できることであるため、「意図的」、(5)(a)は「3時」という未来に起こる会議はすでに決まった予定であり「非意図的」と認定する。

2. 5. 4. 仮定

「仮定」は、「Aが生じた場合、Bが起こる」という因果関係を持つものが該当する。(7)では、(a)の「頭数ふやす」ということが生じれば、(c)(d)が起こる、という因果関係にある。

- (5) (a) 今日、**議事担当課長会**が⁵ある⁶から。 10A5588
3時からね。 10A5589「自由」
【命題+状況内;非参加+未来;非意図的⇒状況内予想[5]】
- (b) ここに、予定がはいつてるけど。 10A5590「自由」
【命題+状況内;非参加+現在;非習慣・一時的⇒実況[2]】
- (c) (ϕ^7 =あなたは) 予定表もらってあるーんでしょ↑ 10A5591「自由」
【命題+状況内;参加+現在;非習慣・一時的⇒実況[2]】
- (d) え↑ 10C5592「位置づけ」
- (e) ある↑、★新しいの。 10A5593「自由」
【命題+状況内;非参加+現在;非習慣・一時的⇒実況[2]】
- (f) →どっかいつちやった。← 10C5594「自由」
【命題+状況内;非参加+過去⇒状況内回想[3]】
- (g) えっ。<笑い> 10A5595「位置づけ」
- (h) このへん、(ϕ =私は) どっか、おいといたはず。 10A5596「自由」
【命題+状況内;参加+過去⇒状況内回想[3]】
- (i) ううん。 10A5597「位置づけ」
- (j) なるべくねー、(ϕ =私は) 転記するようにしてんだよ、 「自由」
【命題+状況内;参加+現在;習慣的・恒久⇒自己記述[7]】
- (k) {うん Inf(女)} 「位置づけ」
- (l) ああ、書いてある、 「自由」
【命題+状況内;非参加+現在;非習慣・一時的⇒実況[2]】
- (m) ★議事課長会、書いてある。 10C5598「自由」
【命題+状況内;非参加+現在;非習慣・一時的⇒実況[2]】
- (6) あのねー、今度ねー、あたしのいところがねー、今度上京すんのねー。
21B10983「自由」
【命題+状況外+未来;意図的⇒予測[11]】
- (7) (a) 頭数 (あたまかず) 増やせばー 「拘束;意味的従属」
(b) {そうねー (21D)}, 「位置づけ」
(c) あんまり今の値段と変わらず<笑いながら> 「拘束;意味的従属」
(d) でかい部屋が使えるんじゃないかなー、ってゆうのが。 21A10931「自由」
【命題+状況内;参加+仮定⇒状況内推測[6]】

2. 6. 修辞機能の特定と脱文脈化指数の確認

表4に示したように、発話機能と中核要素と現象定位の組み合わせによって修辞機能が特定される。脱文脈化指数とは、中核要素の **here** (発話地点との空間的な距離) の程度と現象定位の **now** (発話時点との時間的な距離) の程度によって、近いものから遠いものまで修

⁵ 中核要素は太字で示す。

⁶ 現象定位の根拠となる部分をイタリックで示す。

⁷ 省略されているものを復元するときは $\phi=$ で示す。

辞機能を線上に示した際の指数で、1 から 14 までである (図 3)。脱文脈化指数の数値が大きいものほど脱文脈化の程度が高く一般的・汎用的で、小さいものほど脱文脈化の程度が低く個人的・限定的であることを示す。

表 4. 修辭機能の特定と脱文脈化指数⁸

中核要素		発話機能									
		命題									
		現象定位									
		現在		過去	未来		仮定				
非習慣的 一時的	習慣的 恒久	意図	非意図								
状況内	参加	[1]行動	[2]実況	[7]自己記述	[3]状況内 回想	[4]計画	[5]状況内 予想	[6]状況内 推測			
	非参加	n/a		[8]観測							
	状況外	n/a	[9]報告	[13]説明	[10]状況外 回想	[11]予測		[12]推量			
	定言	n/a	[14]一般化								

「n/a」は該当なし／背景が灰色の部分が修辭機能の種類/[]内は脱文脈化指数



図 3 修辭機能と脱文脈化程度

3. 分析結果と考察

前掲の(5)は、「場面 2」が「打合せ」の談話の一部である。スケジュール確認【状況内予想[5]】が行われ、付随して、【実況[2]】【状況内回想[3]】【自己記述[7]】などが表れていた。同じ協力者の「打合せ」では、脱文脈化程度の高いものから低いものまで修辭機能が用いられているのに対して、「雑談」では、【報告[9]】が 5 割以上を占め、他には【実況[2]】、【状況外回想[10]】などが用いられている。「打合せ」で幅広い修辭機能が用いられ、「雑談」ではいくつか限定される傾向は、「男性のことば」の「協力者 0 1」及び「協力者 2 1」のデータでも同様に見られた。これは、「打合せ」はその目的によって「伝達」や「報告」など、主となる修辭機能があり、そこからその場のやりとりの中でさまざまな修辭機能が用いられるのに対し、「雑談」では限定的になるためではないかと考えられる。

対話データに RUA を適用するにあたり、共話を考慮する必要があると考えるが、その判断がつきにくい部分の扱いについて、検討が必要である。たとえば、(8)の(e)は音声があれば判断がつく可能性もあるが、「嫌だ」と述べているのか、フィラーの「いや」なのか、(h)へ続く発話なのか、文字と文脈からは判断がつきにくい。話し言葉を分析する際の基準を明確にしていく必要があるだろう。

(8) (a) ライブ参加、みたいな話はしたのね。

2 1 B 10890

⁸ 佐野 (2010b) および佐野・小磯 (2011) の修辭機能の特定表に脱文脈化指数を合わせて示したもの

- | | |
|----------------------------------------------------------------|-------------|
| (b) いいなー、混ざりたいなー、とかって。 | 2 1 B 10891 |
| (c) え、1回ぐらい出れば、みたいな。 | 2 1 B 10892 |
| (d) ぜんぜん、かまわない。 | 2 1 B 10893 |
| (e) ただ、なんとなくー、いや<笑い>。 | 2 1 A 10894 |
| (f) てゆうか、い、いんだよ別に。 | 2 1 B 10895 |
| (g) だって、別にー、そうゆうなんか、いやだとかじゃなくてー、★やり、[名前]
がやりやすいほうのがいいんだからー。 | 2 1 B 10896 |
| (h) →やりにくいなー。← | 2 1 A 10897 |
| (i) 気分的にちょっとなー、ってんだっつらもー。 | 2 1 A 10898 |
| (j) ぜんぜん、それはそれでなし。 | 2 1 B 10899 |

4. まとめと今後の課題

本研究では、RUA を用いた日本語話し言葉の談話分析の試みとして、職場における「会議」の談話資料を分析対象として、検討を行った。2節では、分析資料の性質と分析対象の選定基準を述べ、RUA の認定手順を例を以て示しながら解説した。3節では、分析の過程で明らかになった問題点と、現状の分析からうかがえた下位分類「場面2」の「打合せ」と「雑談」の特徴を議論した。今回は「会議」の下位分類「場面2」の中から「打合せ」と「雑談」の2つのみを取り上げたが、他の場面でも同様に類型化ができるのか、検討していきたい。

今後の課題として、修辞機能と脱文脈化指数の展開パターンと使用される語彙との組み合わせから、「場面2」のような、具体的な場面の分類認定に使用できる可能性を検討していきたい。また、将来的な自動分類に向けて、話し言葉、特に対話の場合に見られる、言いさし、共話等の扱いの検討、また、話者交代と、修辞機能及び脱文脈化程度の関連についても、検討を行っていきたいと考えている。また、話し言葉を文字化したものを RUA の分析対象とする場合、表面に現れていない情報をいかに解釈するかが問題となることも明らかになった。コーパスの構築についても検討していきたいと考える。

謝 辞

本研究は、文部科学省科学研究費補助金基盤研究 (C) 「「修辞機能」と「脱文脈化程度」の観点からのテキスト分析手法確立と自動化の検討」(平成 27 年度～29 年度、代表者：田中弥生) による補助を得ています。

文 献

- Cloran, C. (1994) *Rhetorical Units and Decontextualisation: an Enquiry into some Relations of Context, Meaning and grammar*. Nottingham: University of Nottingham.
- (1999) Contexts for learning. In Christie, F. (ed.) *Pedagogy and the Shaping of Consciousness*, London: Cassell, 31-65.
- (2010). Rhetorical unit analysis and Bakhtin's chronotype. *Functions of Language* 17:1, 29-70.

Halliday, M. A. K. & Matthiessen, C. (2004) *An Introduction to Functional Grammar* (3rd ed.) London: Arnold.

現代日本語研究会 編(2011)『合本 女性のことば・男性のことば(職場編)』ひつじ書房
佐野大樹(2010a)「日本語における修辞ユニット分析の方法と手順 ver.0.1.1－選択体系機能言語理論 (システム理論)における談話分析－ (修辞機能編)」

(<http://researchmap.jp/systemists/>資料公開/ (RUA の方法と手順 ver.0.1.1) よりダウンロード可能)

————(2010b)「選択体系機能言語理論を基底とする 特定目的のための作文指導方法について－修辞ユニットの概念から見たテキストの専門性－」『専門日本語教育研究 12』pp.19-26.

佐野大樹、小磯花絵(2011)「現代日本語書き言葉における修辞ユニット分析の適用性の検証－「書き言葉らしさ・話し言葉らしさ」と脱文脈化言語・文脈化言語の関係－」『機能言語学研究』第6巻、pp.59-81.

田中弥生(2011) 修辞ユニット分析を用いた Q&A サイトの質問と回答における修辞機能の展開の検討『社会言語科学会第28回大会発表論文集』 pp.226-229.

————(2013a)「評価の高低によるクチコミサイト「アットコスメ」における談話構造の特徴－修辞ユニット分析を用いて－」『神奈川大学 言語研究』35、pp.1-23

————(2013b)「クチコミサイトにおける修辞機能の商品評価の高低による違い－修辞ユニット分析による検討－」『機能言語学』7、59-74

田中弥生、佐野大樹(2011a)「Yahoo!知恵袋における質問の修辞ユニット分析－脱文脈化-文脈化の程度による分類－」『信学技報』110(400)、NLC2010-32、pp.13-18.

————(2011b)「修辞ユニット分析からみた Q&A サイトの言語的特徴」『言語処理学会第17回年次大会(NLP2011)論文集』

————(2011c)「Yahoo!知恵袋における質問と回答の分類－修辞ユニット分析を用いた脱文脈化-文脈化の程度による検討－」『社会言語科学会第27回大会発表論文集』pp.208-211.